

～人と人をつなぐ～

伝統文化を楽しもう！



神社や地域のイベントなどでお祭りを盛り上げてくれるお囃子。地域には囃子保存会など伝統芸能を伝承されている団体がいくつかあります。今回は「喜多見楽友会」の活動を1年間みてきました。(写真は、6月15日鎌田区民センターまつりオープニングの様子)

◆せたがや祭囃子

世田谷区では現在でも多くの神社で囃子や里神楽を観ることができますが、区に伝わる祭囃子は、江戸時代後期の文化年間(1804～18)に神田明神で盛んに行われていた神田囃子をその名人の一人、世田谷八幡宮の宮司だった大場増五郎が世田谷村に広めたことが始まりです。目黒流と呼ばれるこの囃子は、その後経堂流や船橋流などの流派を生み出し、遠く府中や八王子まで伝播していきました。

また、時を同じくして多摩川流域では大井に伝わる大井囃子が等々力や瀬田、岡本、喜多見を経て神奈川にまで伝わっていきました。

その他にも区内には、江戸祭礼囃子の原点といわれる葛西囃子系の囃子や江戸里神楽を伝える若山流の囃子なども伝承されています。

(世田谷区民文化祭「郷土芸能大会」パンフレットより抜粋)

こっけいな動きで
笑いを誘うこの役は
「擬(もど)き」といいます。
どんな方が演じているのかな？
この日は女性の方でした！



昨年3月3日 毎年開催される世田谷区民文化祭「郷土芸能大会」に出演
里神楽「恵比寿・大黒舞」を披露
(玉川せせらぎホールにて)



8月1・2日 須賀神社例大祭
2日夜 湯花神事
世田谷区指定無形民俗文化財(民俗芸能)
10月20日 喜多見氷川神社例大祭(写真左)



のがわ

第109号
2025年3月発行
発行者 編集委員会
事務局 喜多見まちづくりセンター
03-3417-3401

〈管内データ〉
2025年2月1日現在
人口:33,360人
(前号比23人増)
男:16,477人
女:16,883人
世帯数:16,220世帯
(前号比30世帯増)

古着・古布回収
次回は5月18日(日)
の予定です。

ご協力ありがとうございました。
○赤十字活動資金募集 1,352,412円
○共同募金(赤い羽根) 580,850円
○秋の古着・古布リサイクル回収量は
13,690kgでした。

「ミニコミ紙のがわ」
こちらからもご覧になれます。

身近な図書館をもっと活用しよう！



管内には、2つの図書館があります。
鎌田区民センター地下1階にある鎌田図書館と、
喜多見東地区会館3階にある喜多見図書室。
本を借りるだけじゃない、
さまざまな活用方法をご紹介します。



鎌田図書館の
かまくらとカマミン



11月24日(日)に鎌田区民センターにて、鎌田図書館主催の『図書館活用講座』が行われました。昨年度開催され、好評につき第2弾とのことです。

講座内容は「日本十進分類法のヒミツと読書の楽しみ方」の講義と、本にカバーをかける「本の装備体験」の2本柱。

講義では、図書館でどのように本を分類して書棚に並べているのかについて説明があり、この分類法の知識をどう活かして読みたい本を探すのかというお話がありました。

その他、図書館の仕事の1日の流れや、様々な仕事の紹介。図書館の便利な利用法や、読書のメリットやおすすめの読書法など盛りだくさんな内容でした！特に「1冊1冊読書法」は、十進分類法を学んだ今だからこそ、図書館を最大限活用し尽くす素敵なアイデアだと思い心に残りました。

本の装備体験は、図書館の本についている透明なブックカバーを実際に自分のお気に入りの本につける体験。図書館員指導のもと、1冊図書館の本で練習をして、いざ本番。空気が

入らないように専用の定規でゆっくりつけていく装備体験は、中学生の職場体験でも大人気の作業です。図書館員になったつもりで皆さん楽しそうでした。

図書館のことが知れて、身近に感じられた一日でした。参加者アンケートでは、定期開催してほしい！という声も多く、これを機に図書館を活用する人が増えれば嬉しいです。

鎌田図書館では、他にも人形劇団の方による人形劇や、毎週水曜日の子ども向けおはなし会、かがくあそびの講座、テーマ本展示など楽しい企画がたくさんあります。

世田谷区立図書館では、書棚にない本でも、他の図書館から取り寄せ(予約)することができて、受け取り場所は近くの図書館でも可能です。また、電子書籍や読書記録のサービスも始まりました。

さまざまな活用方法を知って図書館を使い倒しましょう！



WELCOME ミッフィー
ちゃんは、季節ごとにお召し替え(ひな祭り)

春の主な行事		お問い合わせ先 喜多見まちづくりセンター Tel 03-3417-3401	
主 催	行 事	日 時	場 所
喜多見北部町会	総 会	4月20日(日)	喜多見地区会館
喜多見西部町会	総 会	5月10日(土)	喜多見地区会館
喜多見中部町会	総 会	4月26日(土)	喜多見東地区会館
喜多見東部町会	総 会	5月中旬予定	
喜多見上部自治会	総 会	4月29日(祝・火) 10時	自治会集会所
喜多見2丁目団地自治会	総 会	3月30日(日) 10時	団地集会所
宇奈根町会	総 会	4月20日(日)	宇奈根地区会館
鎌田協和会	総 会	4月13日(日)	鎌田天神社社務所
鎌田南睦会	総 会	4月27日(日) 10時	鎌田区民センター
喜多見児童館 宇奈根の渡し実行委員会	宇奈根の渡し	5月11日(日)	多摩川河川敷 駒澤大学玉川校舎付近予定

編集委員会 編集長 荒川真佐子 副編集長 鈴木 好子 森谷みどり 編集委員 志賀 順子 石倉 靖久 山本 浩美 佐藤 壽夫 海老沢リサ 高階 有香 青木 恵子	編集後記 「天気予報で、雨の確率70%なら、傘を持って出かけるよね」とSさんは言った。先日用事があり、Sさんと一緒に新宿に出かけた時のこと。午前中だけの用事だったのにもかかわらず、なぜかSさんはパンパンに詰まったリュックを背負っていた。それが妙に不思議で、「どうしてそんなに荷物が多いの?」と聞いたあとの返事だ。続いて、こう言った。「首都直下型地震の発生確率は70%だよ。新宿に居るときに大地震に遭ったらどうなると思う?」と。リュックの中身は、大地震で帰宅困難者となった時、Sさんにとって必要不可欠なものが入っていたのだ。私は身を乗り出し「いったい何が入っているのか見せてください!」とお願いした。Sさんは「食いついてきたね」とばかりニコニコしながら一つ一つ出して見せてくれた。 ペットボトルの水、羊羹やチョコバー、飴玉、モバイルバッテリー、そして、大事なトイレ問題。携帯トイレと目隠しポンチヨはわかる。しかし、介護用オムツが出てきた時には目からウロコ! 町会・自治会の防災訓練や避難所運営訓練も重要だが、70%という高い発生確率をふまえた行動のあれやコレやを、皆で考える機会もあればいいな、と思う今日この頃だ。 K・A
---	--

「だんらん食まつり」 久々に、おいしく！にぎやかに！！

食事サポートセンター「だんらん」で、10月12日「だんらん食まつり」が行われました。ここは元「学校給食砦南調理場」だったところ。厨房設備を生かし調理場、会食室、活動室を備えた施設に改修し区民に利用されています。配食サービスを中心に食に関する活動や、高齢者の介護予防や健康推進、そして生きがいづくりのための活動を行っています。

コロナもあり6年ぶりの食に関する活動の公開です。こちらで活動している12のグループごとに、豚汁・焼きそば・カレー・キノコご飯・ケーキ・コーヒーと豊富に準備、参加くださった関係者や近隣の皆さんに安価で提供されました。

12時過ぎには保坂区長も駆けつけ「こんな場所があることを知らなかった。これからも応援していきたい」と活動団体を激励、準備したメニューを食されていました。2階ではバザーも行われ、着物リメイクや手書きの絵付けバック、小物などの作品が並びました。

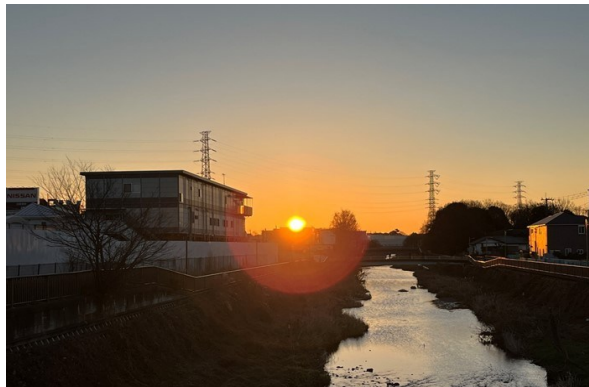
施設閉鎖後の後利用を地域の食の活動と繋げて考えられた先見性と、高齢者中心の活動のいきいきとした姿に脱帽でした。



- ・上 「だんらん食まつり」の様子
また挨拶をする保坂区長
- ・左 「だんらん」で活動する
各グループの代表者
- ・下 日頃の活動の様子
男性料理講習会もあります

❖ 良い一年になりますように～

2025年元日 雁追橋からの初日の出
多くの人が初日の出を見に来ました
(喜多見西部町会公式Instagramより)



1月19日、鎌田南睦会恒例の「どんど焼き」が多摩川河川敷で行われました。今回で36回目を迎え、すっかり地域の小正月の行事として定着しています。

櫓は、一週間前に喜多見の竹山緑地からいただいていた竹で組み上げます。地域の方100名あまりが総動員で作り上げた櫓は、高さ12メートルにもなりました。

青空の下、多くの方が家内安全や無病息災をお祈りし、櫓に火がつけられると、パチパチと音を立てながら勢いよく燃え上がりました。



わたしの東京発見ノート(1)

阪神淡路大震災から30年。ウナギの寝床の街、神戸に棲んでいた大ナマズに跳ねとばされ、下馬二丁目の都営住宅（08年からは喜多見団地）に暮らすようになった。住み始めの頃は、関西人の私にとってカルチャーショックの数々。しかし住み慣れるごとに、東京の、世田谷の、喜多見の「ユニークでびっくりなこと」、「ココが好き」が増えてきた。

- ・銀座線の渋谷駅、「地下鉄のりば3階↑」という案内板に驚いた。地下鉄なのにビルの3階から発着する。
- ・東急世田谷線は、電車なのに環七の道路の赤信号で信号待ちする。
- ・世田谷区には東京23区唯一の渓谷がある（等々力渓谷）。山らしい山は無いのに標高差10m、長さ約1kmとか。

先日、タクシーに乗ったら女性の運転手で話が弾んだ。「東京は平たい処だと思っていたが、世田谷区に入るとやたら坂がある。岡本の坂は落っこちそうだ」と。「大蔵の蛇行する坂もすごいです」と返した。考えると、病院坂も急で長い坂だ。座頭ころがしという坂もある。

近くで不思議なのは喜多見5丁目にある6差路。3本の道路が交差しているからこうなったとはいえ、どういう順番で交差したのだろう？

今回は、世田谷の「ココが好き」を書いてみたい。(壽)

◆喜多見氷川神社の 節分祭「鬼問答・大国の舞」

世田谷区指定無形民俗文化財(民俗芸能)

喜多見楽友会は、保存団体として指定されています。今年は2月2日に行われ、雨で寒い日となりましたが、たくさんの方が集まりました。

オープニングは宇奈根囃子連によるお囃子♪



太鼓の音がドンドンドン・・・
「そこどけ、そこどけ」と鬼が登場、
鬼問答が始まります。

鬼は4匹。今年の鬼役は、喜多見楽友会の方々と氏子さんとか。鬼が顔を近づけてきたときは思わずよけてしまった。迫力満点！



〈解説〉

祝詞奏上の後、社殿前で迫隣の豆まきが行われると、突然、赤・青・黒・白の鬼が現れ、社殿に上がろうとする。それを拒む神官と問答が行われます。この問答をする神楽が「鬼問答」です。

鬼は神主との問答に負けて、桃の弓・葦の矢と、いり豆にて「鬼は外」と、もとの山へと追い返されます。

鬼が逃げた後、「福は内」と豆をまきますと、福の神様の行列が社殿へ進んでこられます。神前で「恵比寿舞」が舞われ、大きな鯛を釣り上げて、にっこり恵比須顔をつくれ、引き続いて、大国様は祝詞を奏上し、小槌から皆様に宝を授け、目出度い舞を舞い納めます。

(氷川神社ホームページより抜粋)



◆日頃の稽古の様子

—喜多見楽友会—

この日は、3月2日の「郷土芸能大会」に向けて稽古中でした。今年の演目は里神楽「悪鬼退治」。現代風にアレンジした場面もありくすくと笑え、本番が楽しみになりました！

楽友会は明治の中頃から続いているという。お囃子のリズムを覚えるには、楽譜があるわけではなく、人から人へ、目と耳と口で伝えてきたそうです。



舞に合わせ演奏。
阿吽の呼吸で笛や太鼓が踊りにピタッと決まる。



稽古場は主に宇奈根地区会館。
大会に向け、1年間通して稽古してきました。



—鎌田囃子保存会—

鎌田天神社で稽古しています。「郷土芸能大会」にこちらも出演予定。
中高校生のメンバーも熱心に稽古していました。晴れ舞台はいつかな。



*取材を終えて

先人から受け継がれてきたこの伝統芸能を、少しでも多くの方に楽しんでいただきたいと思います。ご興味のある方、ぜひお稽古場へ見学されてはいかがでしょうか。



前号にて取り上げましたブラックラムズ東京が、10月11日警視庁成城警察署にて「令和6年度防犯功労表彰」を授与されました。この賞は地域の防犯活動に対する個人または団体に表彰されるものです。

ブラックラムズ東京の皆様、受賞おめでとうございます。そして、見守り活動ありがとうございました。

祝

「ブラックラムズ東京」
見守り活動で受賞！